

平成25年度 鶴岡市水産振興協議会

日時：平成26年3月14日（金）午後2時
会場：由良コミュニティセンター 会議室

- 1 開会
(委嘱状の交付)

- 2 挨拶
 - 1) 農林水産部長挨拶
 - 2) 会長挨拶

- 3 報告
平成25年度事業報告
 - 1 水産基盤の整備
 - 2 水産資源の確保
 - 3 魚価安定対策
 - 4 漁業の担い手育成
 - 5 水産業・漁村の多面的機能の発揮
 - 6 内水面漁業の振興
 - 7 全国豊かな海づくり大会

- 4 協議
 - 4-1 平成26年度事業計画について
 - 4-2 水産振興に関する協議

- 5 その他

- 6 閉会

平成25年度 鶴岡市水産振興協議会委員名簿

団 体 等	役 職 等	氏 名	備 考
山形県漁業協同組合	代表理事組合長	五十嵐 安哉	
赤川漁業協同組合	代表理事組合長	黒 井 晃	
山戸漁業協同組合	代表理事組合長	本 間 義一郎	
山形県漁協念珠関総括支所	支 所 長	遠 藤 順 哉	
山形県漁協由良総括支所	支 所 長	松 本 一 夫	
山形県漁協念珠関総括支所漁業者	代 表	本 間 満	
山形県漁協温海出張所漁業者	代 表	岡 部 實	
山形県漁協豊浦支所漁業者	代 表	本 間 昭 志	
山形県漁協由良総括支所漁業者	代 表	佐 藤 峯 男	
山形県漁協加茂出張所漁業者	代 表	佐 藤 政 一	
山形県指導漁業士(鶴岡南地区)	代 表	佐 藤 勝 則	
山形県指導漁業士(鶴岡北地区)	代 表	佐 藤 栄 一	
山形県漁協女性部(鶴岡南地区)	念珠関支部長	佐 藤 ち じ	
山形県漁協女性部(鶴岡北地区)	由良支部長	遠 藤 政 子	
山形県沿岸青年漁友会(鶴岡南地区)	会 員	佐 藤 洋 生	
山形県沿岸青年漁友会(鶴岡北地区)	会 長	佐 藤 隼 人	
山形県港湾事務所	所 長	熊 坂 俊 秀	
山形県庄内総合支庁水産振興課	課 長	井 口 雅 陽	
山形県水産試験場	場 長	茂 木 省 三	

3. 報告
平成25年度事業報告

1 水産基盤の整備

(1) 市管理漁港整備事業

① 漁港第6防波堤新設工事

越波等により漁港内における安全性が著しく低下していることから、漁船の見回り・警戒作業の必要性が生じている。防波堤の新設を行うことで、泊地静穏度を向上させ見回り・警戒作業の削減と出漁回数を増やして漁獲の増大を図るものである。

既存防波堤と岩礁の間に海水面より約5.4mの高さの防波堤の新設工事を実施し平成26年3月末で完成する。

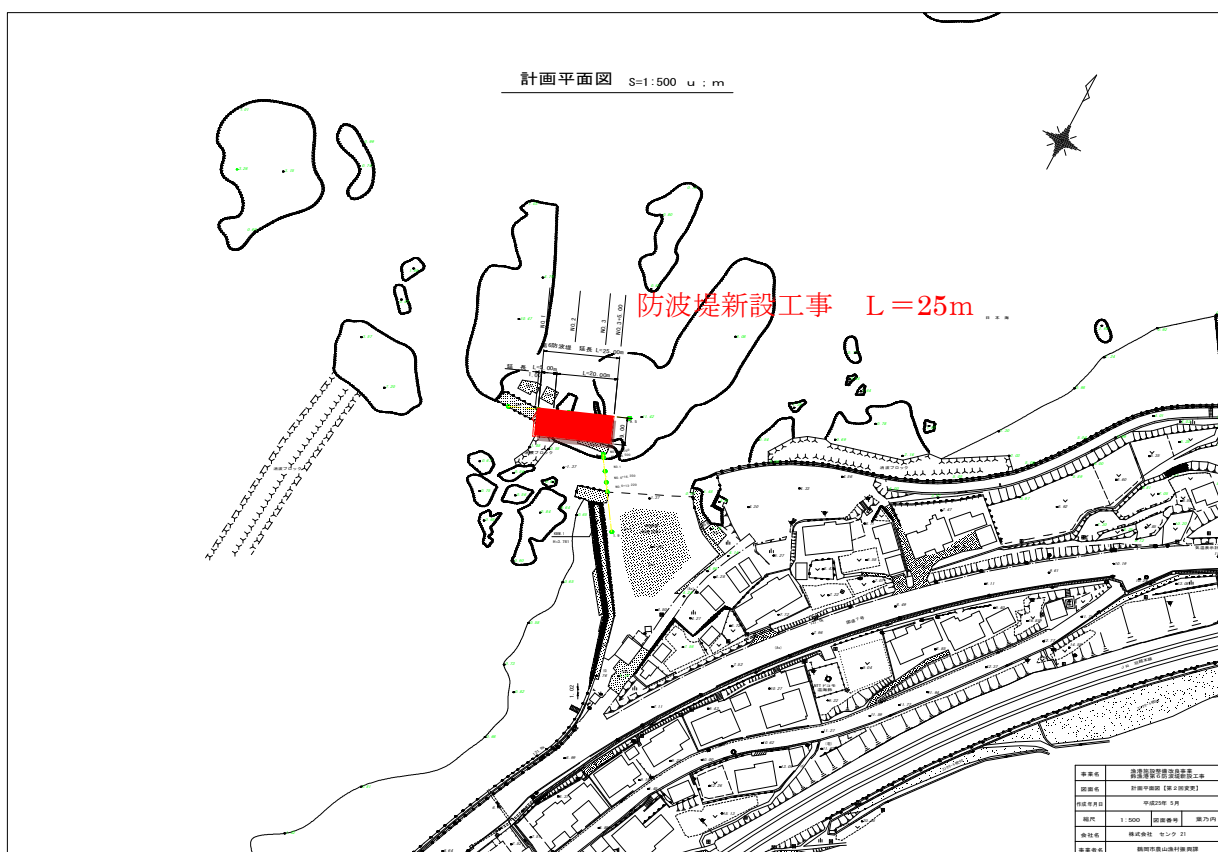
全体事業費 C=63,500千円



完成写真



越波状況



②大岩川漁港西防波堤改良工事

西防波堤について、老朽化などにより部分損壊し近年の波浪の越波による港内静穏度が悪化していることから、既存防波堤の高さから約2.1m嵩上げ工事を実施する。

平成25年6月に工事契約をして工事を進めていたが、既存防波堤が想定より老朽化が著しく計画断面の修正設計の必要が生じた。このため修正設計完了後には、冬期間になったことから、平成25年度の完成は見込めなくなりました。

このため現在、東北財務局と事故繰越事業として本事業を実施できるよう協議をしており、8月末の工事完成を予定しています。

さらに、残区間の約90mについては、平成27年度から第2期工事として整備を進めるため、関係機関と協議を行っています。

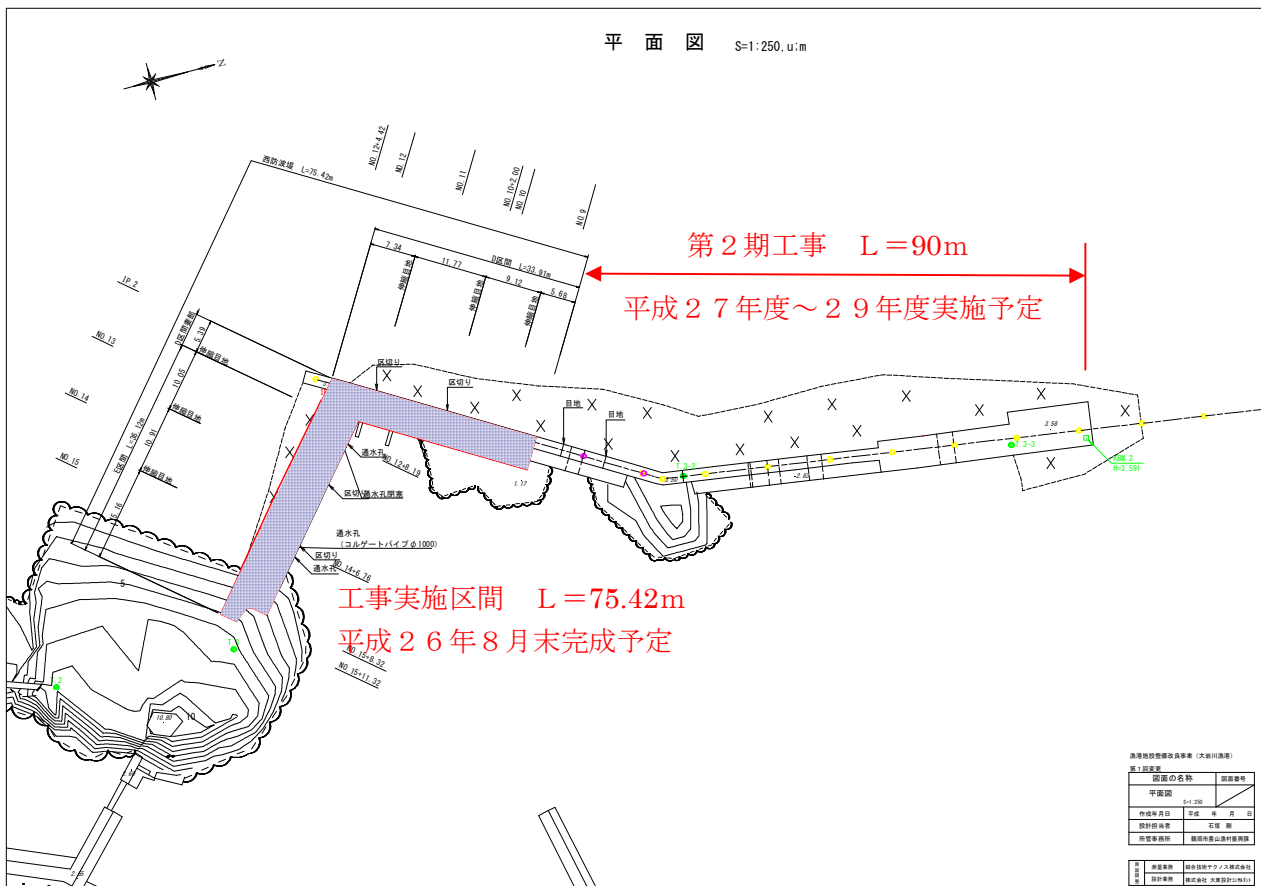


現況写真



越波状況

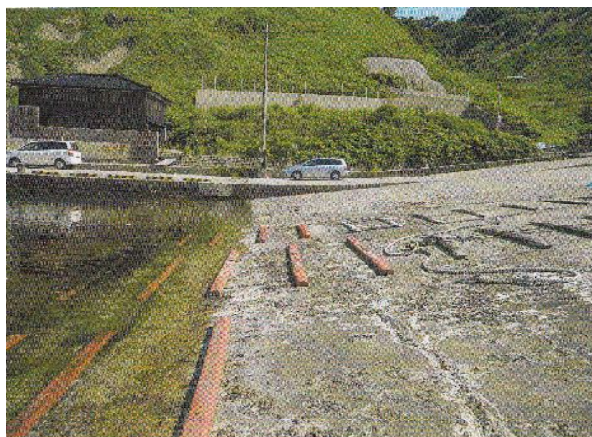
計画平面図



② 油戸漁港船揚場修繕工事

船揚場施設の老朽化が顕著に見られたため、平成24年度から3ヶ年計画で著しく損傷した箇所をコンクリート打換えによる修繕を進めてきました。

今年度で全体計画の約60mの修繕が完成しました。



着 工 前



完 成

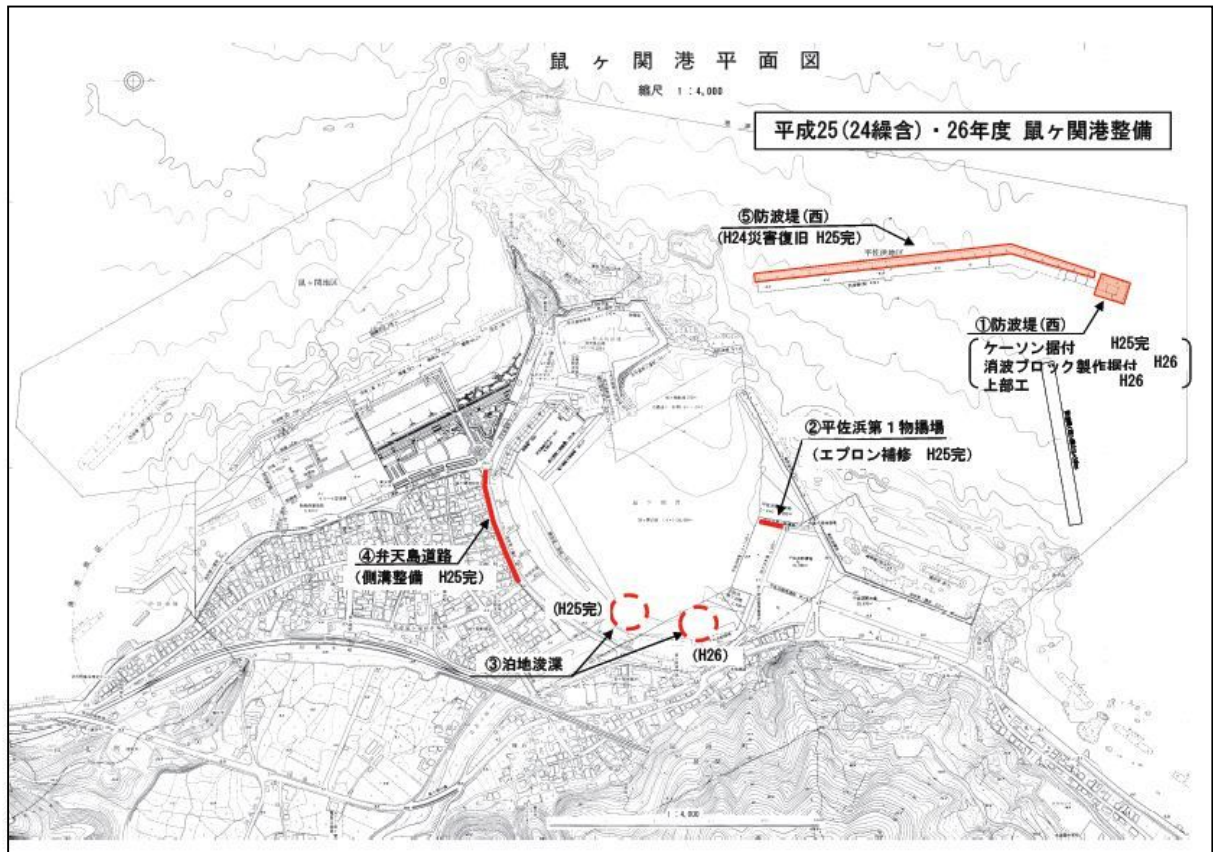
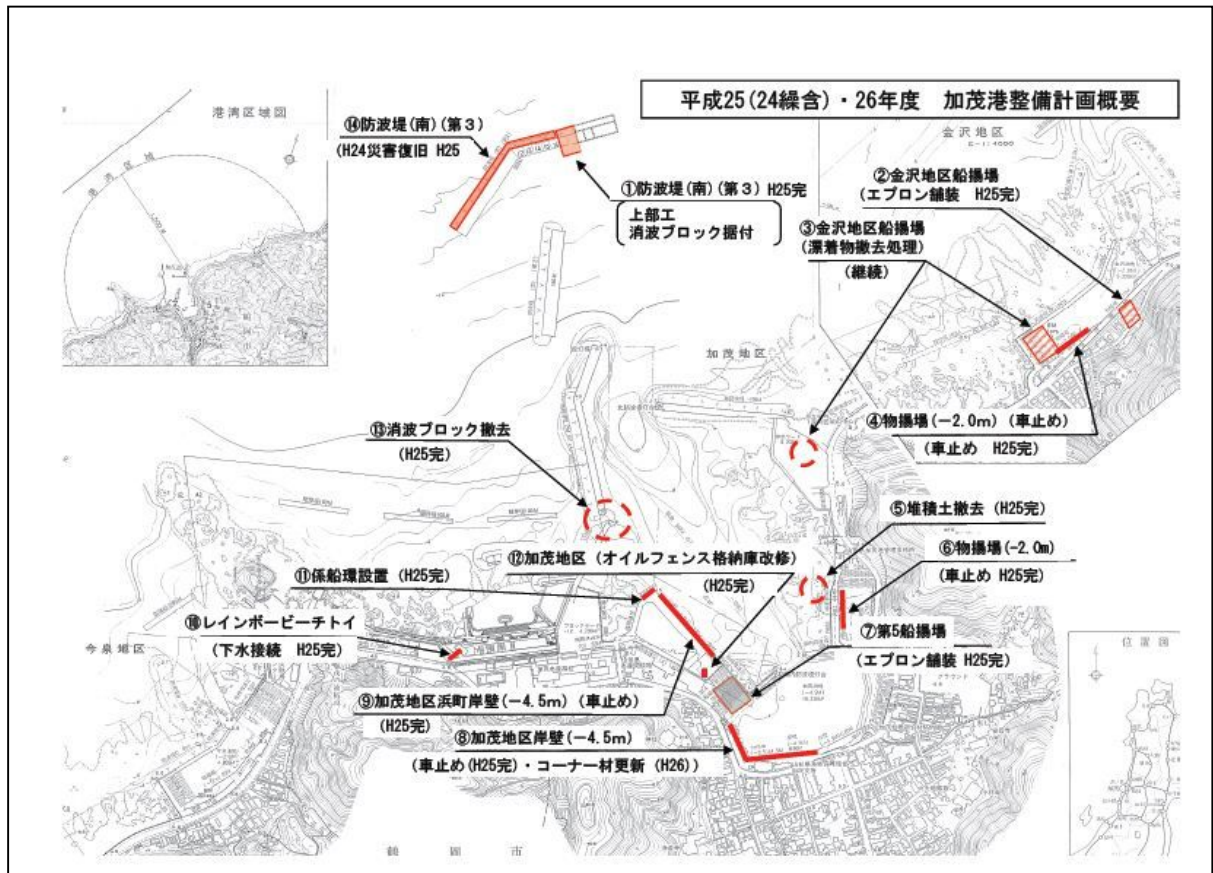
③ 港浚渫工事

例年冬期間に堆積した砂の浚渫を実施した。

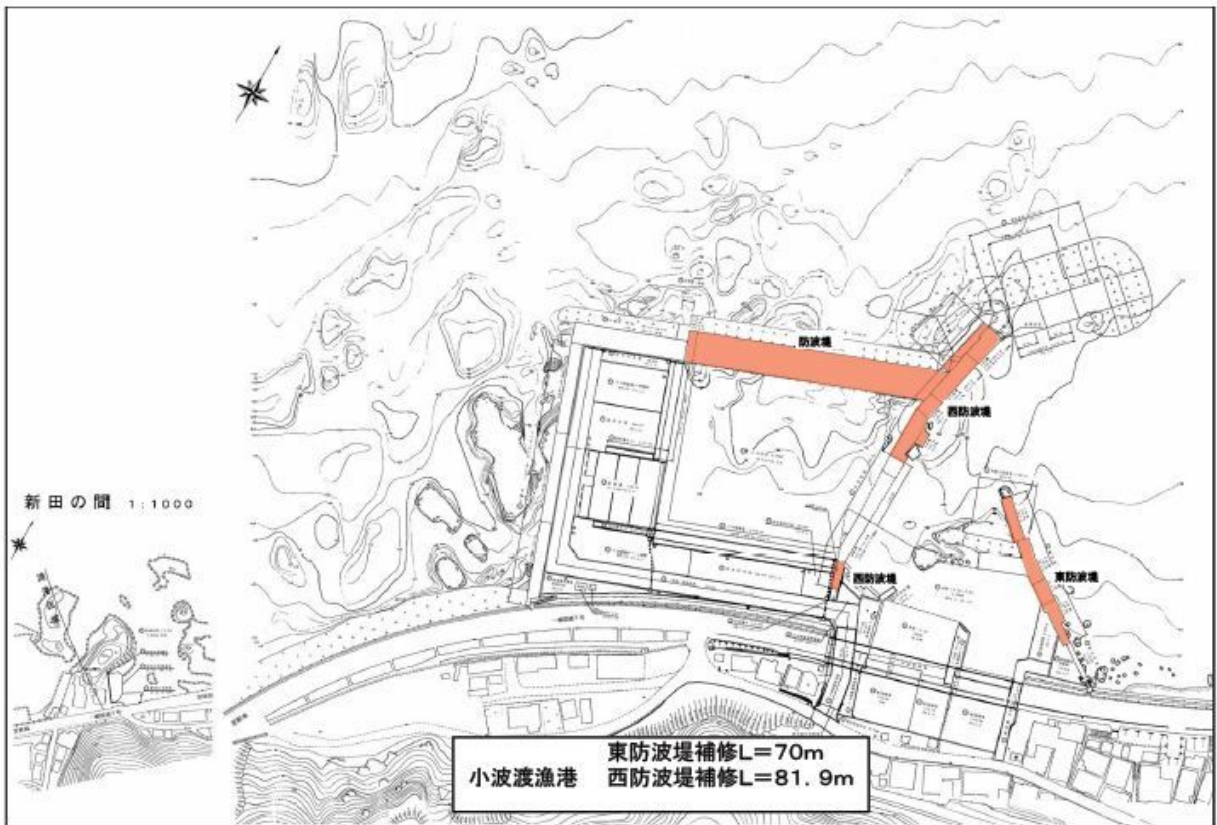
実施漁港	実施時期	撤去数量
油戸漁港	6月	250m ³

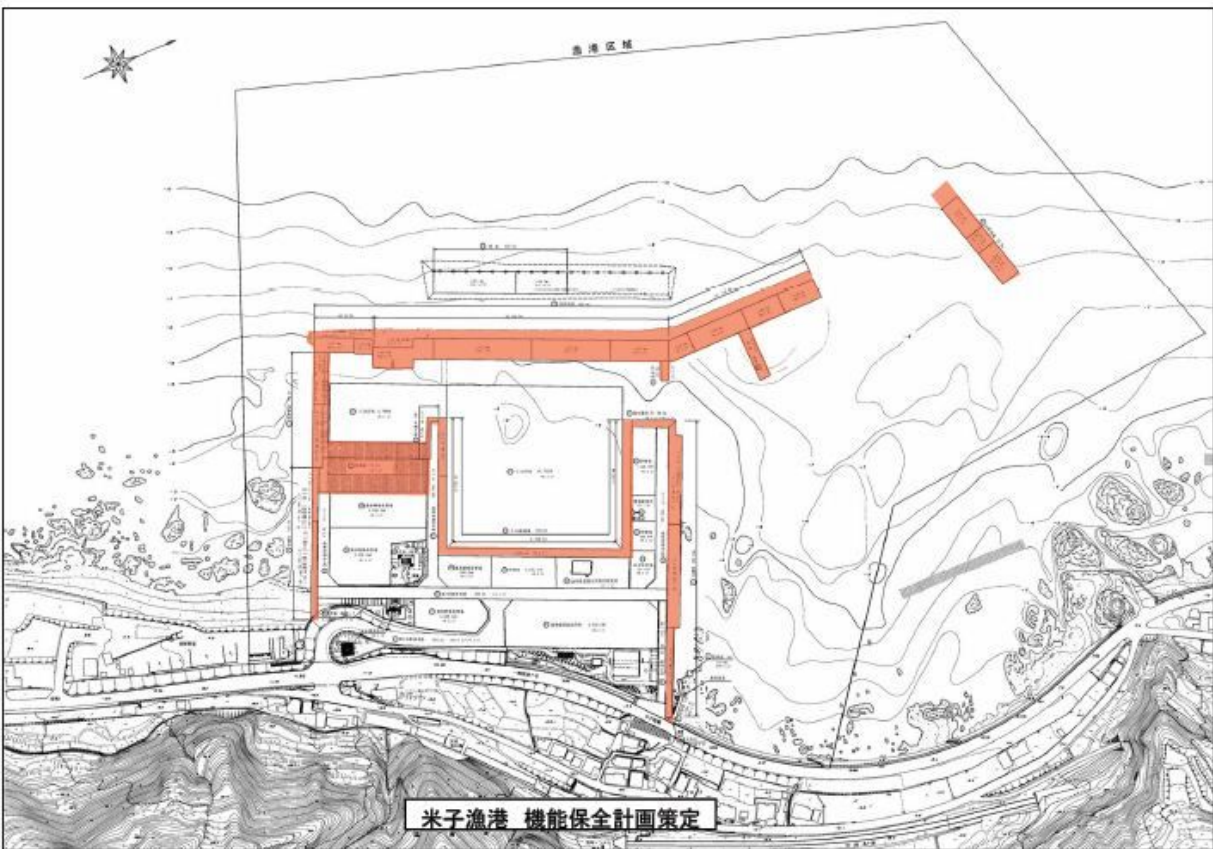
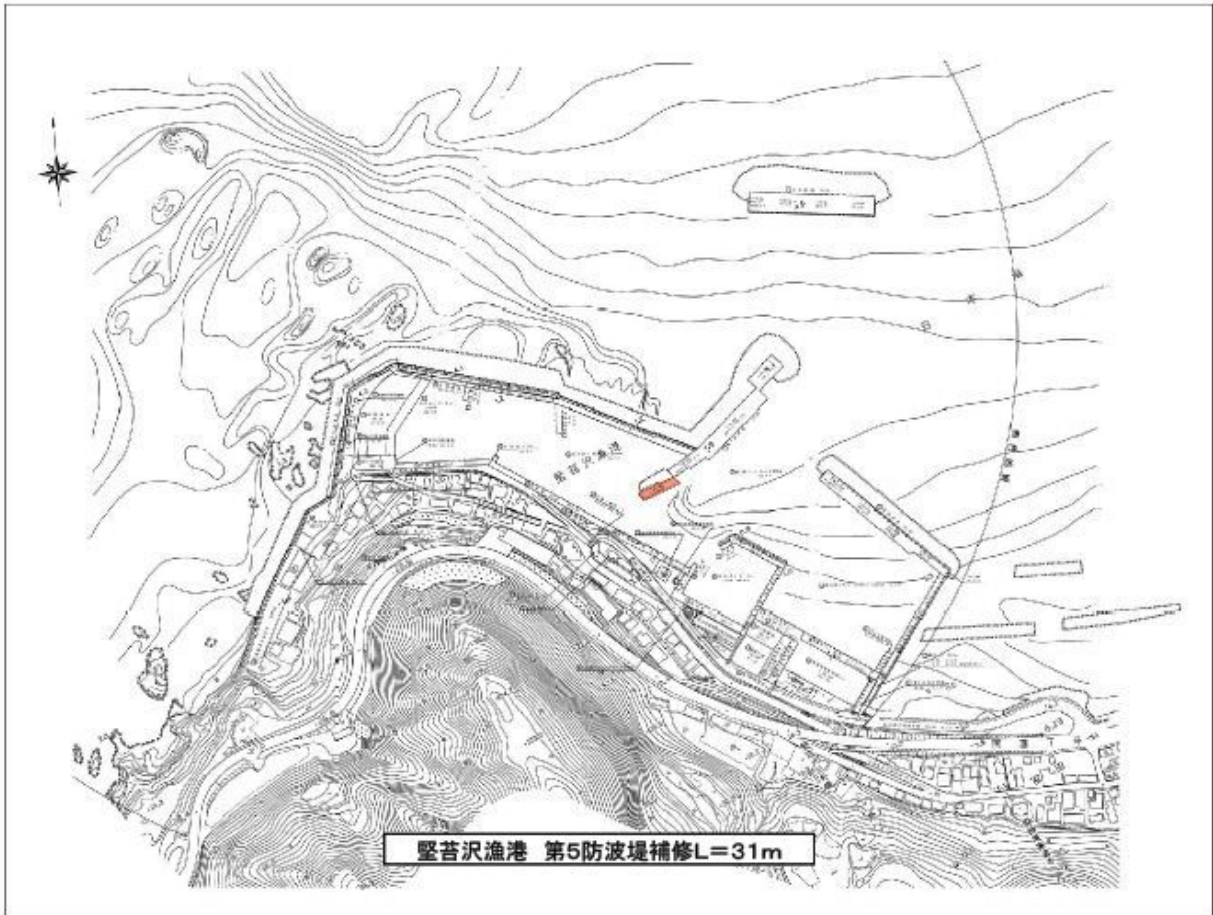
(2) 県管理漁港等整備事業

① 港湾整備事業



②漁港整備事業





② 漁場整備事業

平成25年度は、鼠ヶ関地区においてイワガキ増殖施設の設置を行った。



2 水産資源の確保

(1) 栽培漁業の推進

県で策定した「第6次栽培基本計画」に基づき、水産資源の維持、回復及び沿岸漁業者の経営の安定を図るため支援を行う。

①栽培漁業地域展開促進事業（ヒラメの中間育成事業）に助成

事業主体：山形県漁業協同組合

中間育成数量：75,000尾

②アワビ種苗放流事業に助成

事業主体：山形県漁業協同組合

種苗放流数：147,500個

③さけ海中飼育事業に助成

事業主体：山形県漁業協同組合

飼育数量：140,000尾

③トラフグ種苗放流事業に助成

事業主体：山形県トラフグ研究会

放流尾数：5,200尾

④クルマエビ種苗放流事業に助成

事業主体：クルマエビ自主放流会

放流尾数：100,000尾



トラフグ種苗



クルマエビ種苗

(2) イワガキ漁場管理整備検証事業

①目的

山形県のイワガキは、近年ブランド化し漁業者にとって大きな収入源となっているが、そのため、漁獲量も年々増加し、資源の枯渇や小型のものが多くなるなどの品質の低下が心配されている。

山形県ではイワガキの養殖技術開発事業を実施し、稚貝の天然採苗技術の実用化や産卵盛期の1ヵ月後に岩盤清掃をすることで新たな稚貝を付着させる技術を開発している。

そこで、これらの技術を使い漁業者が実施主体となり由良・鼠ヶ関を検証場所として岩盤清掃を行いその効果を検証するものであり、市が事業費の1/3を補助する。

この事業は、今年度で7年目となっている。

②実施内容

8月14日：清掃前にイワガキの生育状況を確認した。



平成20年9月中旬～10月中旬に清掃を実施箇所
清掃から5年経過し、生育状況として10cm程度

※5年経過



平成21年10月中旬に清掃を実施箇所
清掃から4年経過し、生育状況として6～8cm程度

※4年経過



平成22年9月中旬に清掃を実施箇所
清掃から4年経過し、生育状況として5cm程度

※3年経過

8月15日 : 由良海岸沖の潜堤を検証場所とし、潜水により清掃を実施した。

(由良沖での清掃作業)



岩盤清掃前



完了

③事業効果等

イワガキの産卵にあわせ岩盤を清掃することで、新たな稚貝を岩盤に付着させることができれば4～5年後に再び成貝を漁獲できる。これを繰り返すことで長期間漁場として利用できることになり、安定した収量と品質を確保することが可能となる。

潜堤の場所によって潮の流れや餌となるプランクトンなど条件によって違いがあり、面積に占めるイワガキの付着率は、20～50%となっているが、成長度合いは、年2cm程度となっている。

3 魚価安定対策

(1) 地魚を使用した食育

由良港、鼠ヶ関港で採れた地魚を使った食育の取り組みとして、市内保育園を対象に「お魚教室」を開催した。

スーパーや食卓では、切り身やほぐした身などしか目にすることがなくなり、魚本来の姿や特徴など、直接「見て・触る」そして目の前で魚をさばくことを通して園児たちの魚への関心を図るため、庄内浜文化伝道師マイスターからの協力を得て実施した。



直接触る



直接見る

実施回数	10 保育園	(昨年度 6 保育園)
延べ園児数	798 人	(昨年度 398 人)

お魚教室については、将来の魚食に大きく影響する子供を対象に実施し、魚に対する抵抗感を少しでも軽減できればと考えており、恒久的な事業として進めていきたい。

そのため、今後も山形県漁業協同組合と連携し積極的に取り組んでいきたい。

また、平成24・25年度に実施した保育園を対象にアンケート調査を依頼し、現在取りまとめしており、次年度以降の事業の取り組みに反映していきたいと考えております。

(2) 産地水産業強化支援事業

① 目的

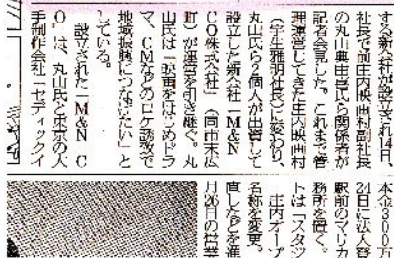
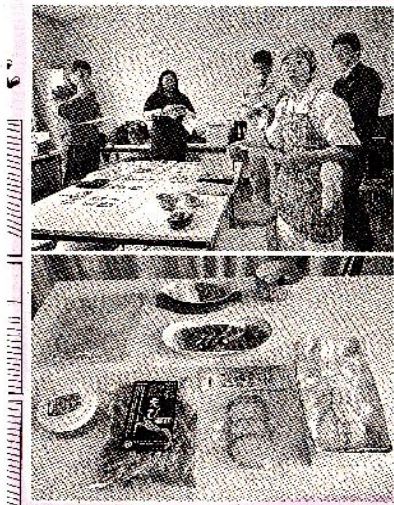
平成24年度より国の産地水産業強化支援事業を活用して「鶴岡市庄内浜うめえ魚産地協議会」が3ヶ年で実施する計画に基づき、魚を使った新たな水産加工品開発や販路拡大のための実践活動を支援する。

③ 成24年度事業実績

- ・試作品開発による試食会を実施（10月15日、2月14日）
- ・首都圏販路拡大（2月20日～21日）東京都江戸川区
- ・水産加工品開発に必要な調査の委託
- ・由良水産加工場で加工したカナガシラの焼き干しを活用して、温海地区のラーメン店「めん処久太」の鈴木氏が東京ラーメンショーの新人王グランプリで優勝した。



第1回試食会実施状況



エビパウダー使った料理も 開発商品試食し販路探る

【庄内新聞】庄内地区の水産物を使った加工品開発に取り組む「エビパウダー」を開発した。庄内地区の水産物を使った加工品を開発し、販路を探る。庄内地区の水産物を使った加工品を開発し、販路を探る。庄内地区の水産物を使った加工品を開発し、販路を探る。

庄内地区の水産物を使った加工品を開発し、販路を探る。庄内地区の水産物を使った加工品を開発し、販路を探る。庄内地区の水産物を使った加工品を開発し、販路を探る。

PTA新聞コンクール 庄内から26点が入賞果たす

【庄内新聞】庄内地区のPTA新聞コンクールで、庄内地区から26点が入賞を果たす。庄内地区のPTA新聞コンクールで、庄内地区から26点が入賞を果たす。庄内地区のPTA新聞コンクールで、庄内地区から26点が入賞を果たす。

（左）丸山町で試食会を実施。右）試食会の様子。

第2回試食会実施の掲載記事

6	5	5	4	3	9	8	10	8	7	7	6	6	7	8	7	8	8	5	6	6	7			
18	21	24	3	6	6	9	12	15	18	21	24	3	6	6	9	12	15	18	21	24	3	6		
7	5	5	3	3	6	6	8	7	4	3	4	3	3	7	5	5	3	3	30日午後現在の気温	2日	酒田・山形	川	15:45	15:45
飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥	飛鳥		

東京庵

TEL: 22-4541

きよのニュース・話題

① T.P.P. 反対運動展開へ 山形市で県民集会
 ② イチ押し! あの店の味
 ③ 闘争の秋産さんが全国入賞 定時、通信高校生発表大会
 ④ 初演り楽しむ 温泉山手手 湯つれオープン
 ⑤ 65年の歴史を振り返る 山形高で語る会

荘内日報

12月1日(日)
 発行所 荘内日报社
 〒987-0055
 山形県酒田7-28
 電話22-1480(1480)内線
 増刊部 〒987-0045
 山形市二番町2
 電話224(22)1244(1480)
 の荘内 丁 郵便 2015

本社代表
 TEL: 22-1480
 購読の申し込み
 TEL: 22-1481
 広告の申し込み
 TEL: 22-1479
 FAX: 22-2633
 印刷の申し込み
 TEL: 22-1724
 編集局
 TEL: 22-1482
 FAX: 22-1427
 販売部
 TEL: 22-1481
 ホームページ
 http://www.shonai-nippo.co.jp/

高級美酒
やまもと桜
 佐藤佐治右衛門
 山形県山形市日野町
 TEL: 22-4142
 FAX: 22-43322

癒やしのクラゲDVDに

編田市立加茂水産館 加茂水産館のクラゲをテーマにしたDVDが完成した。クラゲの生態や飼育方法、またクラゲの食用や観賞用としての利用方法などが詳しく紹介されている。DVDは、クラゲの生態や飼育方法、またクラゲの食用や観賞用としての利用方法などが詳しく紹介されている。

鈴木さん(柳引)が新人王グランプリ

ラーメンショー シンプルな「魚介和だし正油ラーメン」

11月21日に行われた東京ラーメンショーで、鈴木さん(柳引)が「魚介和だし正油ラーメン」で新人王グランプリに輝いた。その味は、シンプルながらも深い旨みがあり、多くの人々を魅了した。

「日本一の師匠に」。新人王グランプリに輝いた鈴木さん(右)と、野尻店主(左)の笑顔。鈴木さんの「魚介和だし正油ラーメン」は、シンプルながらも深い旨みがあり、多くの人々を魅了した。

庄内北部4首長が合意

形市、川市、庄内市、酒田市の4市首長が、庄内北部地域の活性化と観光振興を目的とした「庄内北部地域活性化協議会」を設立し、協力を誓った。

加茂水産館でクラゲの魅力を伝える

加茂水産館では、クラゲの魅力を伝えるためのイベントを開催した。クラゲの生態や飼育方法、またクラゲの食用や観賞用としての利用方法などが詳しく紹介された。

「知・美・遊・創」に想いをこめ

「知・美・遊・創」に想いをこめ、新しい観光地を創出しようとする。地域の魅力を最大限に引き出し、観光客を呼び込むための取り組みが行われている。

敬天愛人 12月号

敬天愛人 12月号 発行所 荘内日报社

由良水産加工場で加工したカナガシラの焼き干しをラーメンのスープに活用して、新人王となった鈴木氏(めん処久太)の掲載記事

4 漁業の担い手育成

漁業就業者の確保・育成を図るため、「山形県漁業就業者確保育成協議会」と短期・長期漁業研修や中高生の漁業体験など具体的な施策の検討を行ってきました。

この結果、底曳網漁船15隻が所属する鼠ヶ関地区では、毎年乗組員として数名の新規就業者が育成されたのを筆頭に、この10年間で、漁業への新規就業者数は鶴岡市では59人となり、県全体の7割以上を占めている。県水産振興課の調査では、この内の定着率は約7割となっています。

また、県では平成25年度から新規事業で、就業準備給付金(年額150万円)を支給する「漁業就業準備研修」を開始しています。現在、鶴岡市出身者が1名研修を受けております。

・地区別新規就業者数(離職者除く)							単位:人
	加茂	由良	豊浦	温海	鼠ヶ関	計	山形県全体
平成15年	1	1	1	0	4	7	9
平成16年	0	0	0	0	3	3	4
平成17年	0	0	2	0	6	8	9
平成18年	0	0	0	0	2	2	3
平成19年	0	0	1	0	1	2	6
平成20年	0	2	4	0	1	7	10
平成21年	0	0	0	0	2	2	3
平成22年	0	3	4	0	3	10	16
平成23年	2	3	3	0	3	11	12
平成24年	1	1	1	0	4	7	9
計	4	10	16	0	29	59	81

資料: 山形県水産振興課調:

(1) 漁業後継者育成事業

①目的

本市において、著しく後継者の少ない一本釣り漁や刺網漁等について、失業中の漁業就業希望者が円滑に就業できるよう、漁業の現場での長期研修を実施することで、一本釣り漁等の漁業後継者の確保・育成を図る。

②事業内容

一本釣り漁等の漁業後継者の確保、育成を図るため、現在失業中で漁業就業を希望する者を一定期間雇用してもらい、長期研修させることで、独立し就労可能な漁業技術や漁業経営に必要な知識を取得させる漁業後継者育成業務について、本市の漁業現場において指導的立場にある漁業者に委託する。

【研修事業実績】

年度	事業名	研修生	現在の状況
20年度	自立のための漁業技術研修	20代底曳網漁船乗組員	中古着火船を購入し、底曳網漁休漁期間の7、8月に、一本釣り漁等に従事
21年度	一本釣り漁等後継者育成事業 (県漁協補助事業)	20代元会社員	22年春からはえ縄漁業の漁師として独立

22 年度	漁業後継者育成事業 (緊急雇用創出事業)	30 代元自営業	はえ縄漁業の研修 23 年春から独立
		20 代底曳網漁船元乗組員	吾智網漁の研修
23 年度	漁業後継者育成事業 (緊急雇用創出事業)	20 代底曳網漁船元乗組員 (22 年度に引続き研修)	吾智網漁の研修 23 年秋から独立

(2) 独立経営支援事業

① 目的

本市において、新規漁業就業者を支援するため、一人乗り漁船漁業による独立の初期投資の軽減を図る。

② 事業内容

一人乗り漁船漁業による独立就業のため、漁船・漁具などの購入、その他就業に必要な経費に対し補助する。

④ 事業効果

平成 24 年度に、1 名がこの事業を活用して独立就業を行い、漁獲の増大に寄与している。

(3) 小中学生の漁業体験

① 目的

次世代の担い手である子ども達に、漁業を体験する場を提供することにより、地場産業である漁業について理解を深めるとともに、自然の中での体験、学習、地域の人たちの交流を通し、郷土愛の醸成を図り漁業の後継者対策に資するものである。

② 事業内容

・ 7 月 4 日

・ 温海中学校 2 年生 3 名 鼠ヶ関小学校 5 年生 21 名

県漁協職員、鼠ヶ関漁業青年会会員による、漁船乗船体験、操業中の底曳網漁見学並びに漁具の取り扱い、魚の仕分け、魚のさばき方、調理、試食、魚の流通について学習



③事業効果等

実際に漁船に乗り、操業船同様の漁具に触れ説明を受けることで、底曳網及び吾智網漁に関する理解が深められ、実際に魚に触れ捌いたりすることにより、魚に対する関心が深まった。また、自分たちが捌いた魚で漁師鍋を造り昼食会では漁業者と一緒に食事をとることで魚食への関心が高まった。

5 水産業・漁村の多面的機能の発揮

(1) 漁港漁村活性化支援事業

①目的

恵まれた自然や美しい景観などの地域財産に加え、豊富な水産資源を活用し、多くの人達に庄内浜の魅力を宣伝しながら、各種イベントを実施することで、漁港漁村地域への呼び込みを展開し、地域住民のネットワークを構築しながら、地元の活性化を図り、リピーターの増加や交流に繋げ、活気に満ちた地域づくりと経済への波及効果を推進する。

あわせて魚食への普及や食育なども推進する。

②事業内容

(ア)小学生を対象とした漁村体験学習

8月6日(火)イカの一晩干しや八乙女浦クルージング、クラフト作りなど海や魚、漁村の文化と触れ合える体験学習を実施した。参加者数34名



イカの一晩干し



クラフト作り (ジェルキャンドル)

(イ)魚介類を活用したイベントへの協力

地元の漁業者または漁村の住民が海産物を広くPRし、海産物を求める都市住民の交流人口拡大を図るとともに、魚食普及に取り組むことを目的に各種イベント開催への協力をする。

5月4日	鼠ヶ関大漁旗フェスティバル (鼠ヶ関)	8,000名
7月27日	由良イワガキまつりと漁船パレード (由良)	1,800名
7月27日	天然岩ガキフェスティバル (鼠ヶ関)	3,000名
10月13日	由良港大漁祭 (由良)	3,000名
1月26日	由良寒鰯まつり (由良)	900名



鼠ヶ関大漁旗フェスティバル



由良イワガキまつりと漁船パレード

6 内水面漁業の振興

(1) 内水面漁業振興事業補助金

内水面漁業の振興を図るため、市管内の5つの内水面漁協等が行う漁族の増殖、漁場環境保全の取り組みに支援を行う。

①赤川漁業協同組合

種苗放流事業：アユ 300kg、サクラマス 70,000尾、イワナ 40,000尾
やまめ発眼卵 20,000粒 等

漁場管理事業：サクラマス産卵場造成、あゆ仔魚降下調査 等

②赤川鮭漁業生産組合

資源増殖事業：さけ親魚の採捕、孵化、飼育、放流 等

漁場管理事業：ヤナ場の造成 等

③山戸漁業協同組合

資源増殖事業：さけ親魚の採捕、孵化、飼育、放流 等

種苗放流事業：アユ 170kg、やまめ 7,000尾 等

漁場管理事業：ヤナ場の造成、サクラマス産卵場造成

④温海町内水面漁業協同組合

種苗放流事業：アユ 250kg、イワナ 10,000尾、やまめ 10,000尾

⑤庄内小国川漁業生産組合

資源増殖事業：さけ親魚の採捕、孵化、飼育、放流 等



サケ採捕、採卵見学（赤川鮭）



サケ採捕、採卵見学（庄内小国川）

(2) サケ稚魚買上げ

海面及び内水面漁業資源の増大を図り、漁業生産の安定に資することを目的に、県の買上げ事業と連携しながら実施する。

- | | |
|--------------|------------|
| ・赤川鮭漁業生産組合 | 買上げ数量：10万尾 |
| ・山戸漁業協同組合 | 買上げ数量：6万尾 |
| ・庄内小国川漁業生産組合 | 買上げ数量：4万尾 |

7 全国豊かな海づくり大会

(1) 全国豊かな海づくり大会について

①目的

「全国豊かな海づくり大会」は、水産業の振興と発展を図るとともに、水産資源の保護管理と海や河川の環境保全の大切さを広く国民に訴えることを目的とするものであります。

この大会は天皇・皇后両陛下のご臨席のもとに、都道府県ごとに昭和56年に第1回大会が大分県で開催されて以来、毎年各地で開催されています。

昨年6月に、平成28年度の第36回大会の式典・放流・会場歓迎行事が庄内で開催されることが決定しました。

この決定を受けて、本市での大会式典と御放流の開催が行われる活動を進める。

②活動実績

平成25年6月の庄内開催決定を受け、本市では下記の取組みを行いました。

- ・7月31日に鶴岡市での開催に向けて、県準備委員会へ大会開催候補会場の提案書を提出。
- ・10月27日に熊本県で開催された「第33回全国豊かな海づくり大会」の開催状況視察へ2名参加。
- ・各イベントと環境学習のための稚魚放流の際に、大会開催決定記念の横断幕を使用して醸成活動を実施。



小学生漁村体験



クロダイ稚魚放流

(2) 稚魚放流事業

①目的

市内小学校児童を対象に稚魚放流体験学習を実施し、水産資源保護、環境保全意識の啓発を行う。

②平成25年度事業実績

実施日	魚種	放流量	放流場所	学校名	参加人数
6.5	サクラマス	700尾	大鳥川(本郷地内)	朝日小学校	24名
6.26	アユ	10kg	赤川(東荒屋地内)	榎引南小学校	13名
8.9	アユ	15kg	鼠ヶ関川(鼠ヶ関地内)	鼠ヶ関小学校	20名
8.10	アユ	15kg	五十川(五十川地内)	山戸小学校	16名
9.4	クロダイ	2,000尾	鼠ヶ関海岸	鼠ヶ関小学校	26名

実施日	魚種	放流量	放流場所	学校名	参加人数
9.10	クロダイ	2,500尾	由良海岸	櫛引西小学校	45名
9.10	クロダイ	2,500尾	由良海岸	三瀬小学校	11名
10.31	イワナ	800尾	東大鳥川（大鳥地内）	朝日大泉小学校	16名
2.27	サケ	10,000尾	赤川（採捕場）	渡前小学校	23名



③事業効果等

稚魚放流のほかに、(財)山形県水産振興協会等の方から講話をしていただき、魚に対する子どもたちの興味に専門的に対応することができた。今後も継続して実施し、水産資源保護、環境保全意識の啓発を図りたい。

4-1 平成26年度 事業計画

市総合計画実施計画に基づき、水産基盤の整備、漁業担い手の育成、交流や観光による漁村地域の活性化を基本として各種事業の展開を図る。

1 水産基盤の整備

(1) 市管理漁港管理及び修繕工事

- 油戸漁港簡易航路標識灯修繕工事
- 浚渫工事

(2) 県事業

①港湾

- 地域自主戦略交付金
 - ・加茂港・・・コーナー材更新
 - ・鼠ヶ関港・・・防波堤(西)整備工事
 - ・鼠ヶ関港・・・泊地浚渫
- 海岸漂着物地域対策推進事業
 - ・加茂港、鼠ヶ関港・・・港湾漂着物の撤去及び処理

②漁港

- 漁港施設機能強化事業
 - ・由良漁港・・・耐震・耐津波実施設計
- スtockマネジメント事業
 - ・小波渡漁港・・・機能保全工事
- 鶴岡地区イワガキ増殖施設整備事業
 - ・温海沖（平成25年度繰越）

2 水産資源の確保

(1) 栽培漁業の推進

- 栽培漁業地域展開促進事業（ヒラメの中間育成事業）に助成
- アワビ種苗放流事業に助成
- さけ海中飼育事業に助成
- トラフグ種苗放流事業に助成
- クルマエビ種苗放流事業に助成

(2) 新漁業技術検証事業

- イワガキ漁場管理効果検証事業

3 魚価安定対策

(1) 魚食の普及 ※食育・地産地消の推進

- 平成25年3月に策定された「く（食う）・け（食け）・こ（食お）の元気なまちづくり」～鶴岡市食育・地産地消推進計画～（平成24～28年度）では、学校給食の地元産魚介類の利用率を現状値22.2%（H23実績）から目標値30%以上（H28）と努力目標を設定し、基本理念である「豊かで恵まれた自然と農、そこから生まれる食に感謝し、健やかな心と体を育む、食文化のまち鶴岡の創造」を推進する。

- ・鶴岡市学校給食センターと山形県漁業協同組合との間で、原料確保及び供給に関する協定を締結する

予定品目 4 種 鮭・真いか・ワラサ（ブリ、イナダ）・真ホッケ

(2) 産地水産業強化支援事業

- 平成24年度より国の産地水産業強化支援事業を活用して「鶴岡市庄内浜うめえ魚産地協議会」が3ヶ年で実施する計画に基づき、魚を使った新たな水産加工品開発や販路拡大のための実践活動を支援。

- ・地域内の観光施設にて試作品のテスト販売など実践活動
- ・県内及び首都圏販路拡大
- ・販路拡大に必要な調査の委託

4 漁業の担い手育成

(1) 山形県漁協と連携した長期漁業研修の実施

- 若手漁業者の独立支援のための長期研修
- 一本釣り漁等の後継者確保のための長期研修

(2) 漁業後継者育成資金利子補給補助金

(3) 独立経営支援事業補助金

- 一人乗り漁船漁業による独立希望者の漁船・漁具の購入など初期投資軽減のための支援。

5 漁業経営安定対策

(1) 漁業共済組合掛金補助金

(2) 漁業振興資金利子補給補助金

(3) 底曳き網漁業経営安定緊急支援資金利子補給補助金

6 水産業・漁村の多面的機能の発揮

(1) 漁港漁村活性化支援事業

- 平成26年度より市単独事業として、漁村地域の総合力の強化を目的に各種事業を展開する。
 - ・イベント開催への協力
 - ・小学生の漁業・漁村体験
 - ・食育の推進と魚食普及を図るためのお魚教室の開催など

(2) 水産多面的機能発揮対策事業

- 漁業者等が行う水産の多面的機能の発揮を図るための取り組みへの活動支援。
活動組織3団体（温海、小波渡、由良）

(3) 遊漁対策振興事業

- 海洋釣堀運営

7 内水面漁業の振興

(1) 内水面漁業振興事業補助金

- 内水面漁業の振興を図るため、市管内の5つの内水面漁協等が行う魚族の増殖、漁場環境保全の取り組みを支援。

(2) 生態系保全事業

- ブラックバスの捕獲

(3) サケ稚魚買上げ

- サケ資源の確保を図るため、内水面漁業生産組合等が生産したサケ稚魚を買上げし、市内河川に放流する。

8 全国豊かな海づくり大会の開催

(1) 全国豊かな海づくり大会開催事業

- 平成28年度に本県で開催する「第36回全国豊かな海づくり大会」に向け、稚魚放流やイベントなどを通して大会開催のPR活動を実施。

また、「森は海の恋人」と言われるように、森の環境保全が海の環境保全と大きな繋がりがあることから、これまでも油戸地区・堅苔沢地区・温海の天魄地区で実施してきた「魚の森づくり」事業と連携を図る。

(2) 稚魚放流体験学習事業

- これまで実施してきた、サクラマス・クロダイ・サケ・アユ・イワナに新たにトラフグを加えて、稚魚放流による水産資源保護、環境保全意識の啓発を図る。